

二年続けてのハイブリッド総会を開催

7月2日(土) 15時より、第47回静中静高関東同窓会総会が、昨年同様ハイブリッド形式で行われました。現地会場となる日本プレスセンターに69名、Zoom ウェビナーに25名、招待パネリストを合わせ101名の方々にお集まりいただきました。誠にありがとうございました。



大役を成し遂げ、さらに絆も深まった幹事期99期の当日メンバー

静中静高 関東同窓会 会報

静中静高関東同窓会
会報 第94号
2022年12月1日発行
静中静高関東同窓会
会報編集委員会



目次

2頁	講演後記 青島矢一(99期) 4頁 議事報告
5頁	各期幹事会の案内、異業種交流会の報告と案内
7頁	わたしと趣味「わたしとスケッチ」小川郷太郎(79期)
8頁	わたしと趣味「わたしと油彩画」池田整(82期)
9頁	出版革命のスヌメ 松井琢磨(94期)
10頁	博覧強記か厚顔無恥か 若松木虔(81期)
11頁	静中静高史より 山梨由記(73期)
12頁	関東同窓会「七夕会」報告 清水雅尚(77期)
13頁	岳南球友会 松永啓(94期) ほか 14頁 事務通信

息吹を吹き込み、繋いだバトン

昨年に比べ新型コロナウイルス感染症防止対策による行政の規制は緩和されておりましたが、現地会場では司会や登壇者以外はマスクを着用、そして残念ながら懇親会も見送りが決定していました。ただマスク越しながらも声を出し校歌斉唱で総会をスタート。なかなか収束しないコロナ禍での総会開催に、昨年とは何か違う明るい兆しを感じられました。

ご来賓として母校より小関雅司校長、本部同窓会より松村友吉会長、柴田尚関西支部長、同窓会事務局より岩崎明教諭にも昨年同様リモートでご出席いただきました。小関校長より、山岳部やギター部、将棋部の全国大会出場や仮装大会の実施、進路状況などを交え現役静高生が校訓「印高」のもと日々努力する様子が紹介されました。我々同窓生にとっても「印高」、「仮装大会」などは、とても懐かしい響きであり何十年も連綿と続いている母校の伝統を改めて感じました。

杉山順一会長を議長とした議事では、Zoomにある「チャット」でのご意見をお願いし、会場の皆様と共に審議を行いました。(詳細4頁) また野球部後援会・河村卓利会長、

濱村綾子事務局次長より丁寧な作成されたスライドで選手紹介がなされました。ちょうど40年前、99期野球部は甲子園に出場。皆で応援に行ったあの暑い夏を思い出しました。

青島矢一氏(一橋大学教授)による講演「イノベーションを生む産業システムの再構築」では、政策的支援の功罪を問い、そして革新を起こすことができる人々と資金だけではない社会の中にあるあらゆる余剰資源とを繋ぐ大切さを、事例を挙げながらお話をいただきました。残念なことには講演中に通信障害が起り、Zoom参加の方々に空白の時間が発生。講演時間も短縮されてしまいました。ご興味がありましたら本会報2頁からの講演後記をご覧ください。このハイブリッド形式での開催は、一年を通じて入念な準備が必要となります。今年度も役員理事ほか各位にご協力いただき、99期は稲葉克哉代表を中心に準備を進めて参りました。ここに改めて深謝申し上げます。

久しぶりに会う仲間との繋がりがまたここで新たに生まれたのも確かです。悩みごとがあればその道の専門家となった仲間の助言を得たり、

卒業してから数十年も別々の道を歩んできたのに、話しているうちに偶然にも共通の知り合いがいることがわかって驚いたり。同じ校舎で3年間一緒に学んだだけの縁が、さらに繋がっていきます。総会までに至るプロセスにおいて何かとても大切なものを得ることができたような気がしました。「あの人は元気かしら」と思いながらも、実際には顔を合わせるといってところまで漕ぎ着くことがないまま、何十年と月日は流れてしまっていますが、こうした機会に私たちは再会できているわけです。静中静高関東同窓会の基盤を固め、それを引継ぎ紡いでくださった諸先輩方。金曜夕方に開催されていたこの総会が、若い同窓生も参加しやすいようにと土曜開催となったように、昔も今もそれぞれの時代に合わせながら規約の見直し等もされてきたことと思えます。こうした先達のご尽力にも支えられ、100期へとバトンタッチをすることができました。

静中静高の伝統と歴史、確かにそのバトンは重いかもしれませんが、皆で声を掛け合って渡していけば大丈夫、重くはありません。軽やかに、しなやかに繋ぐことで気づけば不思議な縁が生まれていることでしょう。そしてそれがこの閉塞感極まりない状況も打破できる力となっていけばと心から願うばかりです。(99期・青島洋子記)

講演後記

「イノベーションを生む産業システムの再構築」

99期 青島 矢一

講演をする青島矢一氏
(一橋大学大学院経営
管理研究科教授)

この20年、生産性を高めて国民の所得を増大させてきた諸外国に対して、日本は大きく遅れをとってきました。先進国の中では一人負けといってもよい状況です。日本の平均賃金はOECD加盟国の平均を大幅に下回り、2021年には米国の55%にまで低下し、お隣の韓国にも追い抜かれました。

世界第3位の経済大国といわれている間に、われわれ国民は随分と貧しくなってしまったのです。そうした実感が必ずしも広く共有されていないとしたら、おそらくそれは、政府が借金をして大胆な政策的支援を続けてきたこと、そしてそれにも関わらず物価が長期に渡って低迷してきたからです。ただし、将来世代につけを回すことになる政府の借金は、いずれ経済成長を通じて返済しなければなりません。ところが皮肉なことに、政府による大胆な支援が、それに依存する企業の競争力を低下させてきたようにもみえます。

この悪循環を断ち切って、日本を再び成長軌道に乗せて、豊かな国民生活を実現するにはどうすればいいのか。今回の講演の背景には、こうした私の問題意識がありました。

講演の内容は、(1)政策的支援の罫、(2)真つ当な経営とイノベーションの矛盾、(3)余剰と革新活動の結合システムの再構築の3つの関連する要素に分かれています。当日は時間の関係で全てお話できませんでしたが、以下では、それぞれの内容を簡単にご紹介したいと思います。

(1)「政策的支援の罫」で伝えたいことは、旺盛な政策的支援に、企業は踊らされないようにしなければならないということです。

10年ほど前、かつて花形であった日本のTV事業は壊滅的なダメージを受けました。パナソニックは2012年と2013年の決算で合わせて1兆5千億円もの損失を計上しました。シャープは最終的に台湾の鴻海精密工業に買収されることになりました。こうした悲劇には、2009年から2011年にかけて導入された、「エコポイント」による購入支

援策が、部分的には関わっていたように思います。エコポイントの導入によって国内のTV市場は、一時、活況を迎えます。

しかし、市場拡大に対応するため、多くのTVを海外のODM企業から調達した結果、市場価格は大幅に下落し、エコポイントの終了とともに、国内生産は立ちゆかなくなり、企業は大きな減損処理を余儀なくされました。目先の需要増への対応に追われた企業は、むしろ、長期的な競争力を失った可能性があります。

こうした事例は決して例外ではありません。2016年には、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入され、太陽光発電については当時の国際価格を大幅に上回る買取価格を設定されました。その結果、一時、企業は潤います。しかし、長期的には、中国企業の台頭を許し、日本の太陽電池メーカーは損失を計上し、多くは事業から撤退しました。さらに、残念なことに、

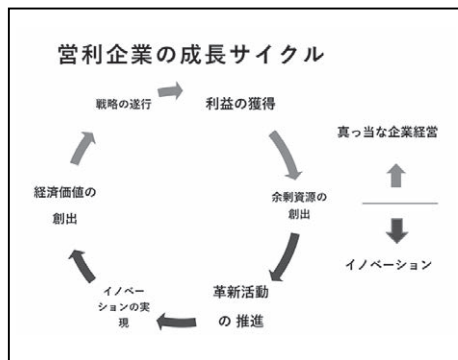
環境のために進めた政策が、逆に、山を切り崩すような無理な開発による環境破壊を誘発した面さえもあります。

長い経済の停滞状況からの脱却を意図して進められてきた政策には、一次的な効果はあるにしても、企業の長期的な競争力の向上にはつながってこなかったと思います。そうした過去の事例は、コロナ禍において様々

な政策的支援が導入されている現在の状況に対しても重要な教訓を与えていると思います。

ただ一方で、豊富な政策的支援が、多くの大企業を財務的に潤してきたことも確かです。日本企業の内部留保(利益剰余金)は、アベノミクスの開始以降急速に増大し、今では500兆円を超えるレベルにまで膨れ上がっています。

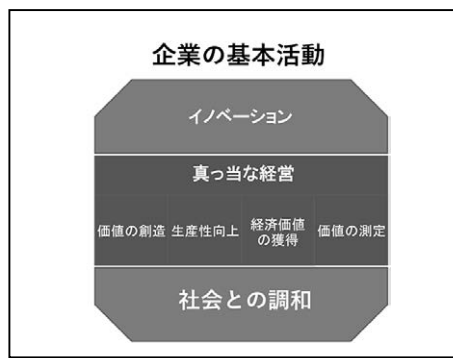
企業の本分は、世の中に経済価値を生み、相応の利潤を獲得することです。そして企業が成長するには、獲得した余剰利潤を、革新活動に投入し、イノベーションを実現し、新たな経済価値を生むというサイクルを回すことが必要です。



ですから、たとえそれが政策的支援によるものとしても、企業が余剰を持つこと自体は、経済成長を実現する上で良いことです。



しかしここで、余剰が本当に革新活動に投入されるかということが問題となります。これが「真つ当な経営とイノベーションの矛盾」で伝えたいことです。



利益を生むことを使命とする企業には「真つ当な経営」が求められます。資本家からは、収益性、資本効率、ガバナンス強化などの要求が突きつけられます。また、社会の公器である企業には、意思決定の透明性や説明責任、法律や社会ルールに対するコンプライアンス、さらにSDGに含まれるような社会的責任も求められます。

一方の「イノベーション」の方は、不確実性が伴う中での試行錯誤や遊び、ゆとりを必要とします。イノベーションを生む活動は、常識からは逸脱した非合理的・非論理的なものに見えるものです。こうした活動を、真つ当な経営を追求する企業が

支えることは簡単ではありません。しかし、「真つ当な経営」と「イノベーション」の間の矛盾を解かないと企業は成長できません。

過去を振り返ると、国際的な競争力を獲得してきた日本企業は、苦勞しつつもこの矛盾を解いてきました。たとえば、航空機に使われている炭素繊維強化プラスチックや、海水から飲料水を作る逆浸透膜など、長い間ビジネスにはなりにくい不確実な開発活動に日本企業は投資を続け、新たな産業をつくりあげてきました。

不確実性の高いイノベーションを推進するには、経済的な合理性を越えて革新活動を正当化する様々な「イノベーションの理由」を創造することが鍵となります。イーロン・マスク氏が、商用ロケットや電気自動車の事業を始めるといったとき、最初から皆がその将来利益を確信していたとは思えません。しかし、「化石燃料のない世界」「人類を火星に連れて行く」といった夢や構想が人々を動かしたことは想像できます。さらに、エネルギー問題や環境問題の深刻化といった社会の大きな不可避の流れに対応していることが説得力に寄与したこともあるでしょう。企業内部で新規事業を生むときも、推進者の思いや社会性をもった大きなストーリー、企業理念との整合性など、単純な

イノベーションの理由

- 夢・思い・覚悟
 - そして夢や思いを支える論理
- 社会や技術の大きな流れを捉えたストーリー
 - 不可避の流れに注目
 - 政策や社会の追い風(逆風)の活用
- 企業理念や企業価値との整合性
 - 企業が大事にしている価値
 - 経営トップの思い
- 市場やニーズの存在の証明
 - 戦略的ニッチ市場の獲得
- 経済システムを超えた論理の必要性
 - ・ 社会、政治、技術、組織…

経済合理性を越えた理由がイノベーション活動を前進させるために重要となります。

ただ、資本市場や社会からますます強い圧力を受ける大企業内部でイノベーション活動を進めることが難しくなっていることも理解できます。そこで鍵となるのが、従来の企業組織の枠を超えた(3)「余剰と革新活動の結合システムの再構築」です。

これまでのように大企業の内部で余剰資源を革新活動に結合することが難しいのであれば、大企業の持つ余剰を社会に解放して、革新活動の担い手と結合することが効果的です。幸い、その萌芽は見えつつあります。

たとえば2019年に日本で行われた五千億円を超えるスタートアップ投資の35%以上は事業会社による直接もしくは間接的な投資によるものです。最近

はCVC(コーポレートベンチャーキャピタル)を設置して、通常の事業への投資配分とは切り離して、スタートアップ投資を行う企業が增大しています。

大企業がもつ余剰資源はお金だけではありません。人材、名声、技術など、外部の革新活動との結合によってイノベーションに貢献できる資源は多様です。たとえば、スバイバーという慶應大学発のベンチャー企業は、構造タンパク質を人工的に生成し、石油由来のプラスチックや合繊を代替する夢の素材を追求しています。その成長過程で、製造ノウハウなどの多くを大企業から学んできました。特に、大企業のOBによる発酵技術と紡糸技術の伝授は、量産化にいたる過程で重要な役割を果たしました。

あらためて、政策的支援に頼って経済の成長は望めないうし、豊かな生活は保証されません。日本を豊かにするのはイノベーションであり、その創出のためには、社会に蓄積されている様々な資源を、組織の枠にとらわれることなく、柔軟に革新活動に結合することが大事だということです。そして、そこでは不確実性の高いイノベーション活動を正当化する経済合理性を超えた理由を創造することが時に鍵となるということです。

100期の皆さん、よろしく願います。



役員(12名)

会長	杉山順一	84期	
副会長	青木武	82期	
〃	増井喜一郎	85期	新
〃	高橋宏	87期	
〃	桑原千朗	94期	
〃	大澤理	96期	
〃	中沢京子	97期	
監事	松島勤	84期	
〃	竹田徹	85期	新
顧問	野方重人	77期	
〃	八牧浩行	82期	
〃	多賀谷秀保	82期	

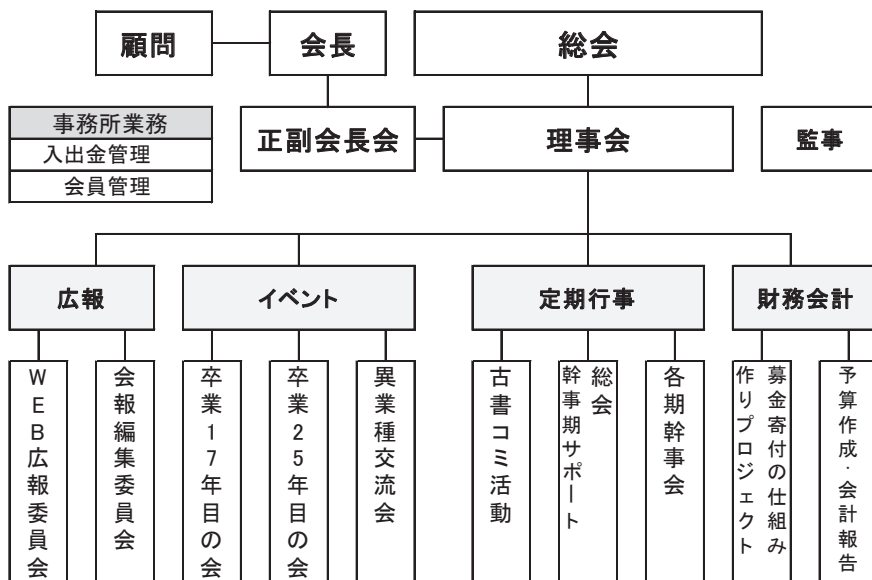
総会議事報告・新体制

2021年度事業報告・決算報告、

2022年度事業計画・予算案の二議案について審議を行い、共に可決いたしました。役員改選の三号議案については、昨年度の理事会にて、杉山順一氏（84期）を次期会長候補として上程する決議をした説明を行い、理事会上程案

の質疑応答後、可決いたしました。再任となった杉山会長より、新体制の役員候補案が示され、こちらでもご了承をいただきました。

可決された事業計画に基づき下図の組織図にて、新体制をスタートしました。各委員会については、担当副会長を決めております。また、9月7日に開催された正副会長会において、杉山会長より新理事体制が提案されました。9月21日に新理事による理事会を開催し、新体制がスタートいたしました。理事につきましては、今後とも運営強化のため、年度内に追加指名など必要に応じて行います。また、現在把握している各期幹事の一覧も併せて掲載しました。さまざまな活動を再開して参りますので宜しくお願い致します。(副会長 94期・栗原千朗)



各期幹事については、それぞれの期にて関東でのとりまとめ役の方を自薦他薦で決めていただき、随時、お近くの役員までお知らせください。

3年ぶりの開催

各期幹事会のご案内

2月25日(土) 13時半
どなたでも参加できます

2019年度(2020年1月)の開催を最後にコロナ感染拡大により中止が続いていましたが、今年度は皆さんと心置きなく懇親ができるよう準備を進めています。各期幹事以外の方も奮ってご参加くださり同期会のプラットフォームとしてご利用ください。

【開催概要】

日時…令和5年2月25日(土)

午後1時30分～3時30分

(古書コミは13時より開店)

会場…日本プレスセンタービル

10階ホール

会費…5千円

※開催につきましては、行政の行動制限が無い条件下で実施いたします。中止の場合、HPの告知と共に、各期幹事及びお申込みの方にご連絡いたします。

★各期幹事会とは

各期幹事会は、パーティー形式の和やかな懇親会です。各期と連携しながら懇親を目的として開催しています。今回は、この二年間、中止となった総会懇親会を兼ねていますので、開催は冬となりますが、どなた様もお気軽にご参加ください。

★申込みはWEBまたはFAX

各期幹事(代表者)からの発信をお願いします。また、以前にWEB登録された方にも一斉メール送信を実施予定です。同期の間で連絡を取り合い、参加のご検討をよろしくお願いします。

申込は、Google フォーム、メールまたはFAXで受け付けます。会場との都合上、申込期限は、1月末日とさせていただきます。

(1) スマホから申込み
左のQRコードより専用フォームに入力し送信してください。



各期幹事会
参加申込フォーム

(2) パソコン・FAX
下記宛先に左記を記述し送ってください。

- ① 期
- ② 氏名
- ③ メールアドレス

個人情報情報は、同窓会の各種企画の連絡のみに使用し厳重に保管します。

★企画もお楽しみに

- ▽ 古書コミ開催
- ▽ 岳南球友会ほか
- ▽ 校歌・逍遙歌斉唱

(副会長 94期・栗原千朗)

【メール】shizukokanto@gmail.com
【FAX】03-5217-0301

同日開催

古書コミユニケーション

3年ぶりに古本市、やります

各期幹事会のスタート30分前より受付近くで、古本市を開催します。以前はバーコード付きの本に限定してありましたが、何でもお持ちください。冊数も不問です。ご寄付いただいた本を後日、古本屋に買い取っていただき、全収益を図書カードに換え、母校図書室に贈っています。図書室には関東同窓会のコーナーが常設されており、購入した本の紹介をしてくださっています。

また、ご持参いただかない方でもどなたでも、ブースに持ち寄られた本をお持ち帰りできます。意外な本との出会い、同窓生や母校現役生との繋がりが、皆さんをお待ちしています。

各期幹事会・古書コミは、対面でのリアルな懇親交流を目的としており、コロナ感染拡大によりやむを得ず開催の中止を決定した場合、それまでの申込者・各期幹事へ必ずメール等でご連絡します。リスクを取ることなく開催可否を判断します。直前まで申込みを見合わせずに、安心して早めのお申込みをしてください。

業種、世代を超えた交流

異業種交流会報告

次回、第31回は1月27日(金)

コロナ感染拡大により中止延期が余儀なくされていた異業種交流会が、5月20日(金)日本プレスセンター9階・日本記者クラブ会議室にて2年4か月ぶりに再開されました。第30回目の今回は、95期・菊人みゆき氏(明星大学特任教授)のファーストスपीチを皮切りに懇談の輪が広がりました。

第一部(スクール形式)

18時40分 ファーストスピーチ

19時00分 参加者自己紹介

仕事を持つ現役世代にとって、都内といえどもそれぞれの職場からの移動時間もあり、定刻の18時半時点でわずか4名という集まり具合で、運営側としては少々心配しました。仕事の区切りが思うようにいかない方も多いでしょう。また、無情にもコロナ濃厚接触者として自宅隔離となり、キャンセルの方も数名いらっしゃいました。いろいろなご事情がある中、21名が駆けつけてくださいました。

菊人氏には「ワークモチベーション論」をテーマに約20分間に凝縮して、お話をいただきました。「モチベーション(意欲・やる気)に関する仕事を始めたのは30年近く前です。当時この言葉は知られていませんでしたが、

現代ではエンゲージメント等の類似概念とともに組織経営の重要課題と位置付けられています。モチベーションは売上、顧客満足、研究成果等の業績に影響を与えるからです」とのことでした。

ある大企業で「社長との距離感」を調査し、4億km以上離れていると選択回答した社員が14%もいたという驚きの調査結果や、調査の眼目である「ではどうやる気を引き上げていくのか」、それを上する要因(モチベータ)が紹介されました。適職である・創造工夫を楽しんでいる・逆境や新規開発にこそ燃える・目標設定をすると加速する・狭く深い追求に誇りをもつ専門家型・他者周囲に期待評価されることを喜びとする・プライベート充実が仕事も比例して頑張れる…。これらいくつかのタイプは、何か上手く行かない時の自己分析項目として役立つと、とのことでした。



著書:「事例に学ぶ!モチベーション・マネジメント」経団連出版、「できる人の口ぐせ」中経出版、「部下のやる気が見えないとき読む本」東洋経済新報社ほか

また、モチベーションは伝播するものであり、共通項を持つ同窓会のようなグループでは、モチベーションは伝染しやすいと、とても説得力のあるお話でした。

その後、参加者一人3分間の持ち時間で、自己紹介・近況報告などを自由にいただきました。人生いろいろ、十人十色の非常におもしろいお話ばかりでした。弁護士、ITビジネス起業、作家、元外交官、就活を見据えた大学生たち等々と、業種・世代を超えたバラエティ豊かな面々で、直面している悩みや、さらなる前進に、今回の菊入氏のお話は非常に参考になったとの感想が聞かれました。

中止延期を乗り越えた開催でしたが、会員の皆様全員にお知らせしている会報は年二回のタイミングしかない為、12月にご案内しておきながら1月中旬には、コロナ感染拡大の第6波(オミクロン株)により延期が決定し、ホームページ・フェイスブック、ツイッターで限定的な案内となりました。会報の案内から半年を過ぎた開催にも関わらず、初めて関東同窓会のイベントに申し込まれた方も多く、また強い参加意志を持つ若い方々が積極的に参加してくださいました。

以前は、ビュッフェ形式にて飲食をしながら、運営側スタッフも含め全員がスピーチを約1時間半以上、人数によつては2時間近く行っていました。もともと若い方々に気軽に参加していただけるように「参加費無料」とし、飲食なしの企画に刷新しました。簡単なスピーチでも、参加者の方々は見事なまでにコンパクトにアピールをされ、タイム感もすば

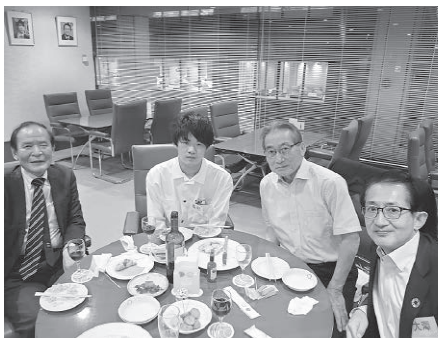
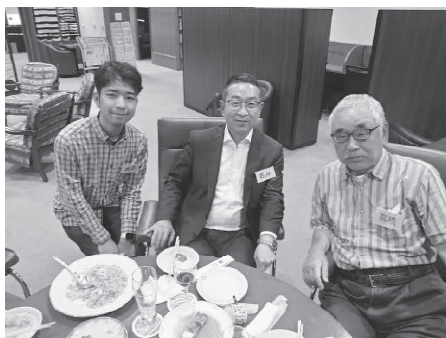
しく、お蔭様で予定時間内に終了することができました。20時に会議室退室としましたが、ご都合によりそこで帰られる方もおり、わずかな時間を利用して活発な名刺交換・情報交換が繰り広げられました。

第二部(ラウンジフリータイム)

20時 食事会(自己負担)

21時 閉店により終了

終了後は、同フロアにあるラウンジにて、自由参加にて懇親を行いました。コロナ禍では、少人数とはいえ飲食会は感染リスクを100%避けられませんので、参加については各個人のご意志ご判断とし、記者クラブの指示の下、東京都の行動制限でもあるテーブル一つにつき4名までの小単位としました。それぞれの嗅覚で、情報交換をしたい同士が自然と集まり、それぞれのビジネスや在籍中の部活の話などで盛り上がりました。やはり、こういった対面での生の交流は、改めて必要とも感じました。



コロナ感染拡大など社会状況を見ながら、今後もこの二部形式をセットとして開催予定です。2022年に立ち上がった当イベントは、多くの方々のご尽力により、関東同窓会のオリジナリティとして続いて参りましたが、今後も工夫を施しながら進化の道を辿りたいと思います。総会や各期幹事会のような大きな懇親会と違い、少人数ならではの交流は、人生の分岐点となる出会いがあるかも知れません。後日、ビジネスでやりとりをしているとの嬉しいご報告が数件ありました。是非幅広い世代の皆様に参加していただきたいと思います。

《次回予告》

第31回異業種交流会
令和5年1月27日(金) 18時半
日本プレスセンター9F会議室

【ファーストスピーチ】

119期・岩田匡平氏

株式会社BuySell Technologies
代表取締役社長兼CEO / 株式会社AVIC 共同創業者

略歴：東京大学工学部システム創成学科卒。株式会社博報堂を経てマーケティングコンサルティンク等を提供するOWL 株式会社(現・株式会社 AVIC (9534)東証クロス)を2013年に創業。

ベンチャー企業を中心に急成長企業のマーケティング活動を幅広く支援。2016年6月より株式会社 BuySell Technologies のコンサルティングを開始、同年10月より取締役。リユース事業全体を管掌し2017年9月より代表取締役社長兼 CEO。

【参加申込】
関東同窓会アドレスに、期と氏名をメールでお送りください。
shizukokanto@gmail.com

第30回 異業種交流会に参加して

137期 峯村明日斗
(大学2年)

ロシアとウクライナの戦争や電力不足など、様々な社会問題が次々と起きている今日において、様々な界限のエキスパートの方々のお話を聞くことで、それらの問題についての理解を深めることができ、大変勉強になりました。大学のゼミでの研究や就活のためになるようなお話もたくさんいただけたので、またこのような機会があれば参加したいと思っています。ありがとうございました。

同業者同士での交流会立ち上げや、大人の部活動を応援！

異業種交流会では、同業種、もしくは異業種でも同じ部門(営業や開発など)同士が自然と集い情報交換をする様子も多く見られます。また出身の部活で期を越えたOBの交流をしているグループもお見掛けします。関東同窓会で旗揚げをすることは現時点でなかなか難しいのですが、会報(年2回発行)やSNSで、企画の告知案内や活動報告はいつでもできますので、どうぞご利用ください。ご相談・寄稿等は、関東同窓会メールアドレスへ。

わたしと趣味

「わたしとスケッチ」



フランスにて(筆者)

画文集を発行して

79期 小川郷太郎

もう何十年か前から「趣味は何か」と問われると「柔道と書画」と答えているが、永年自分が変わらないことに内心苛立っている。もっと新しいことに立ち向かう革新性が必要だと思っただけだ。

柔道は静高3年の時、交換留学生としてアメリカに1年留学することとなり、周りから「日本人の特技を身につけて行け」と言われて急遽柔道部に入部した。付け焼き刃で受身から習ったものの、アメリカで役に立ったわけではない。大学に入ってから入部したい部は4つほどあったが、生半可に始めた柔道は不完全燃焼なので黒帯を取りたいという思いで柔道部を選んだ。入部して黒帯はとったもののまだまだ未熟だと思いつから卒業後もずっと柔道を続け、79歳になった今も細々続けてたまたま試合にも出るが依然としてバツとしない。書道ときたら小学1年生ごろから続けている。今は比較的に大きな書道協会に属し、毎月の競書や3ヶ月に1度の昇段試験にも欠かさず出品しているが、自分でも嫌になるほど下手くそでなかなか昇段しない。

どれも素人だが、余命いくばくもないと思うこの頃はジタバタしてもダメだという諦観から現実を静かに受け止めて気楽にやろうと思うようになった。向上することに拘らず、くさらずに、少しのんびりやろうかと思う。



ザルツブルグ風景(オーストリア)

た古さに心が惹かれた。ヨーロッパ中を走り回った。イギリスやドイツなども綺麗だが、やはりフランスの風景が魅力的だ。建物の輪郭線などは、ドイツのように定規を使ったような直線ではなく、ところどころ歪んでいて手描きの温もりがある。赤茶色の屋根の瓦は、古さで黒カビが付着したり、破損したり、稜線が歪んでいたりするとところに「ゆかしさ」を感じる。田園はイギリスやデンマークも美しいが、フランスの田園は空気の湿潤性のせいか緑色のニュアンスも多様で、落ち着いた深みや心地よいグラデーションが感じられる。こうなると、フランス偏愛の類かもしれない。フランスの次はデンマークの風景が好きだ。楚々とした気取らない風景のなかにお伽噺に出てくるような藁葺きの屋根の家などが現れたりする。緩やかな丘陵の美しい田園の緑が目には沁みる。



トンレサップ河畔(カンボジア)

外交官生活を始めた1968年から描き溜まったスケッチブ

ックは数十冊になった。いつこの世を去るか分からないこの頃になつて、何とか記録に残したいと思い、昨年末に『外交官が描いた世界の風景』(日貿出版社)と題する画文集を発刊した。最初は『素人画家が描いた』という題を考えたが出版社から助言されて、僭越ながら『外交官が』とした。それで、外交官としての生活がある程度わかるように、画の説明や特設コラムで外交官の生活の一端なども書き加えた。



クレムリン遠望(ロシア)

モスクワのクレムリンを遠望したスケッチも載せた。旧ソ連時代に経験した信じられないほど不合理で非効率な経済社会体制や人間不信の政治制度に驚愕したが、クレムリンはとても美しく見えた。時々仕事で入ったこの美しい建物の中で、共産党書記長たちはどんなことを考えて政治を行っているのかと思いを馳せたことも画に書き添えた。今日のウクライナ戦争の報道を見るにつけ、クレムリンのこの画を思い出す。

短期間ではあるが、大学の終わりに水墨画を学んだことがある。素晴らしい先生だったが、よく「君の絵は拙いところが良い」と言われた。最初はちよつとがっかりしたが、何度も言われているうちに、そうか、それならその拙さの中に「風景の心」を入れたと思うようになった。スポーツだって一流選手は常に自分の成果に一喜一憂して悩む。だから、静高のモットーに反するが高きを目指さず、自分の拙さを認識して気楽にやろう、それが素人の趣味というもののだと思うようになった。



崖下の街(フランス):水墨画

フランス南西部ドルドーニ地方の古い街。手前の川と背後の岩山に挟まれて、石崖に張り付くようにできた家々の姿と屋根の古さや歪みに惹かれた。この風景が気に入って水墨画に描き変えた。

わたしと趣味

「わたしと油彩画」

82期 池田 整

はじめに

「絵は自由に描いていい」、「子どもは頃そう言われて絵が好きになった。中学生時代はデ・キリコやダリなどシュールな絵画に惹かれた。試しに真似てみると全くのでたらめにしかならずデッサン力不足が身に染みた。静高時代は現役彫刻家・大村政夫先生による美術の授業が受験競争の合間の憩いの時間であった。ただその後は理系の受験競争に突入して絵画は封印。大学で物性研究を行った後、就職先の日立でも研究開発や管理業務に従事した。それまで封印していた絵、特に油彩画に取り組めたのは退職した2022年からだ。

アトリエの予備校生に！

種々の絵画教室の中からようやく芸大・美大受験予備校のアトリエ・ヴィーナスを見つけた。ここでは好きな時間に好きな絵が描ける。芸大出身の講師が一、二時間ごとに巡回指導してくれる。またロッカーに道具一式を置くことができ、描きかけのキャンバスを預けられる。我々は手ぶらで通えば良く、試験もなく、無事予備校生になった。「まずはデッサンの基礎から学び油彩画を

目指したい」と講師に告げたところ、当初は石膏ボール、レンガ、ワイン瓶などを数時間かけて描くように言われ、次第に静物モチーフが複雑になっていった。デッサンを学んで気付いたことは、決して右脳活動だけでは習得できないということであった。かつて私の学位論文の主査であった大学教授は退官後、「今後は左脳世界から足を洗って右脳活性化のため書道始めた」と言っておられたので私もその乗りで絵を始めた。しかし基礎としてのモチーフのバース、陰影、質感等の把握と実践は厳然とした左脳活動であった。ダリの「記憶の固執」も、いい加減に時計を曲げている訳ではないようだ。

テーマ決定と公募展挑戦

静物モチーフの油彩画修業を四、五年続けた後、いよいよ自ら思いを巡らして作品テーマを決め始めた。海外旅行で見た優美な風景や全くの空想世界を背景に

架空の人物を登場させて物語を作るのが好きだ。テーマ決定までが最も楽しく、時に苦悩する時間である。

作品を披露するにあたり当初は元会社のOB美術展に出品、高覧頂いた後のコメントを次作の糧とした。(写真1) そのうち無審査の絵では申し訳ない気がしてきたので公募展への挑戦を始めた。公募展の特徴はまだ熟知はしていないが日展系の端正な写実絵画を大事にするものと抽象・具象を論じず自由な創作を推奨するものがあるようだ。まずは小さい絵で「近代日本美術協会展」(写真2)、「たぶろう春季展」(作品1)などの公募展に出品、2020

年たぶろう春季展では新人作家賞を頂いた。

やがて一辺180センチを超える大型油彩画を描き始め、静岡の兄弟達も知っていた日展系の「光風会展」に三年前に初入選。作品2は昨年春、同展に出品した「聖域の守人」である。舞台は2019年に訪問したミャンマーのカックラ遺跡、仏塔群の精悍さもさることながら、近くで出会った柔和な表情のお婆さん、風格ある坊さん、昔懐かしい雰囲気のある坊やに聖域の守人を感じつつ絵の中に取り込んだ。軍部が闊歩するミャンマーにかつての穏やかな日々が戻るよう祈念している。

その後、より自由な創作を大事にする「二紀展」や「国展」に軸足を移しつつ今に至っている。



写真1：元会社のOB美術展
静高82期の同期生とともに



作品1：「カッパドキアに生きて」
2018年 たぶろう春季展



写真2：近代日本美術協会展にて(筆者)



作品4：「水妖妃伝」2022年 国展(国立新美術館)



作品3：「聖水伝説」2021年 二紀展



作品2：「聖域の守人」2021年 光風会展

【二紀展】は旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第二の紀元を画する意図の下、1951年に二紀会を創立。つまり我々82期生と同一年の先進的会派である。昨年の入選作品『聖水伝説』（作品3）の舞台は815年に訪問したアイスランド。活火山を氷河湖の地底に擁し、しばしば噴火で氷河を吹き飛ばして滔滔と流出する大量の聖水、そしてその水がやがて天空に舞い戻ってオーロラの核になる壮大な地球の再生メカニズム、そこに男と女の綾なす世界を重ね合わせた。

【国展】は、最近まで日本画の展示会だと勘違いしていた。たまたまWEB検索したところ、抽象、半抽象絵画主体の素晴らしい絵画展であることがわかった。そこでダメもとで昨年から出品開始。幸い入選できたもののコロナ禍のためEIB展示のみ。今年は五月に実展示で開催。居並ぶ作品の完成度の高さと絵の大きさに圧倒された。私の作品4「水妖妃伝」は二紀展作品の姉妹版でアイスランドの流水が舞台、ここでは聖水を操り男の本性を質す妖しげな王妃を登場させた。

これから

不条理な問題が山積する昨今、閉塞感から自分を解放させたい人も多いだろう。私自身、人間の生き様を描くのもそのためだ。アトリエでは無心に絵筆を進める間、普段は饒舌な仲間達とも静寂な時間を共有できている。とはいえずうような人物画を描くのは

容易ではない。幸い油彩画では水彩画や書と違ってやり直しが効く。特に顔を描くとき、何度も何度も描き直していると最後にこつと微笑んでくれる。百歳まで生きればもっと上手い絵が描ける（北斎）か、未熟なだけに自分のこれからが楽しみである。

エッセイ集

明日からできる 出版革命のススメ

94期 松井 琢磨

インターネットの普及によって、マスコミが独占してきた情報発信が誰でも自由にできるようになったように、今や技術革新によつて誰でも簡単に本を出版できる時代になりました。

そのことは日本ではまだあまり認知されていませんが、アメリカでは新しいテクノロジーを使って安価に本を出版するセルフパブリッシングが全体の七割を占めるまでになっています。

まさに「出版革命」といえる現象が起こっているのです。

そのことを知った私は、一般庶民に出版を開放する出版支援事業を始めることにしました。

「たとえあなたが大企業の社長でなくても、あなたにも後世に語り継ぎたい人生のドラマがあるはずです」というコンセプトのもと

と、中小企業の企業小説は勿論、個人的な闘病体験や恋愛体験、果てはかつての戦争体験を本という形で残したいという方のニーズに応えていきたいと思っております。

私が出版業界と関わりを持つようになったのは二〇一八年四月に小説を出版したことがきっかけでした。

それまで普通のサラリーマンだった私は五十五歳の時に衝動的に小説を書き始め、すったもんだの末に作家デビューを果たすと二年半で『爛柯の宴』全七巻、『スピニング・ジョー』全三巻の計十冊の本を出版し、『爛柯の宴』は週刊の囲碁新聞に連載されるようになりました。

こう書くと同調な歩みのように聞こえますが、出版業界の呂布会のような閉鎖性に阻まれ苦労した私は、出版にこぎつけるまでに三年もの歳月を要しました。

原稿を抱えて駆け回った時の体験とその時に感じた出版業界に対する違和感や問題点は『華氏451度の社会を招いたのは誰のせい？』素人の私が見た出版業界の大問題」というエッセイに綴って出版しました。



『華氏451度の社会を招いたのは誰のせい？』松井琢磨著

タイトルの中の「華氏451度」というのは、レイ・ブラッドベリが一九五三年に発表したSF小説のことです。

この小説では、本を読むことが禁じられ、本を持っているだけでファイアマンが駆けつけて家ごと燃やされてしまうという恐るべき近未来が描かれているのですが、全くの絵空事のように思えるこのディストピア社会も、よく読んでみると多くの点で現在の日本と似ており、戦慄を覚えると思います。

日本がそんな社会になりつつある責任の一端は、活字文化の担い手である出版業界の劣化にあると考えた私は、日本全体が抱える閉塞状態を打破するためにも、出版業界の活性化が必要と考え、出版支援事業を始めることにしたのでした。

現在の出版業界のどこが問題なのでしょう。

日本の紙の出版市場は一九九六年の二兆六千五百億円をピークに二十年で四割も縮小しています。刺激的な娯楽が増えたので本が売れなくなったのは仕方ないと考える人も多いかもしれませんが、アメリカでは出版市場はほぼ横ばいで推移しているのです、これは極めて日本的な現象なのです。

そもそも電子書籍のセルフパブリッシングとオンデマンドの紙書籍を組み合わせれば、ほとんどただで出版できる時代になったのに、出版社は旧態依然とした

枠組みにしがみついて、出版は特権的なものという思い込みから抜け出せていないことが最大の問題なのです。

そのために業界全体で内向きになって守りに入るばかりで、いまだに高価な出版を独占することに汲々として、新たなテクノロジーを活用した少量多品種の出版という新たなビジネスチャンスの発想が全くできていないのです。

その良い例が電子書籍への対応です。

アメリカでは電子書籍が紙書籍の半額くらいなのに、日本では何故かほとんど値段が変わらないので、これでは電子書籍が普及するわけがありません。

電子書籍という新たなテクノロジーを活用すれば新しいビジネス展開が可能になるのに、オンライン診療に反対する医療業界同様、既存の秩序を守ることに必死で、結果的に日本全体のデジタル化の遅れを招く元凶となっているのです。



全国各地で出版革命について講演を行う筆者（写真奥）

デジタル化の遅れは閉塞感に包まれる日本全体の課題かもしれない。

れませんが、海外との競争にさらされたことがない出版業界で特に顕著に露呈しているというところだと思えます。

そのため一般の人、いまだに出版は高価なものと思ひ込まされているのです。

既存の出版社のサービスでは自費出版の場合、三百万円から四百万円の費用がかかります。

また会社の宣伝のためライターに執筆を依頼して出版する企業小説は七百万円から八百万円かかり、これが社史ともなる二千万円くらいになるのです。

これでは中小企業にとって、出版のハードルは非常に高いものでしょう。

しかしライター代だけを見ると七十万円くらいなので、ただ同然で出版できるテクノロジを活用すれば本来なら百万円そこそこで出版できるはずなのです。大手出版社は出版を実現する自社の付加価値が七百万円もあると考えているようですが、私には出版社が主張する編集や宣伝のノウハウにそんな価値があるとは思えません。

ここにはライターを搾取する業界体質も見え隠れし、そこも出版革命によって是正すべき課題だと考えています。換言すれば、仲介者を中抜きして、依頼者と執筆者が直接取引する改革ともいえるのです。

そこで私は出版支援事業の第一号案件として二〇二二年四月に『街の小さな工務店の地元密着

戦略―セダー建設・親子二代の物語―』という小説を安価で出版するお手伝いをしました。



『街の小さな工務店の地元密着戦略』松井琢磨著

共に歩む出版革命へのムーブメント。いつでもお手伝いします。

これは創業百周年を迎えた近所の工務店の社長から、記念として本を出したいという相談を受けて実現したものです。

どの街でも見かける十人足らずの工務店で繰り広げられる親子二代の葛藤の物語ですが、こんな小さな工務店にも出版に値する面白い人間ドラマがあるのだということ、多くの方に知ってもらいたいと思います。



セダー建設の皆さんと出版記念イベントにて

同時に世の中の出版に対する心理的ハードルが下がり、日本でも「出版革命」が実現する日が来ることを祈念してやみません。

博覧強記か厚顔無恥か

81期 若桜木虔

本文を読む前に巻末の解説を読む、という人は、意外に多いだろうと思う。

で、先日、ある時代小説を手にした。解説で、いかに作者が博覧強記かを滔滔と述べていたからである。

ところが、本文を読み始めたら冒頭の一ページから、とんでもない時代考証間違いがあつて唖然とした。

主人公は寺社奉行所の同心という設定である。

しかし、寺社奉行は譜代大名が任じられる役職で、町奉行や勘定奉行とは根本的に異なる。

業務は、その大名の家臣が勤め、与力や同心は、いない。ところが、あたかも寺社奉行所に与力や同心がいるかのように書かれている。

おまけに、八丁堀近辺に代々の屋敷がある、と来たもんだから唖然とするばかり。もう完全に町奉行所の同心と混同している。

「代々の屋敷」どころか、寺社奉行は、だいたい五年から十年ぐらいで交替するのだから（中には一年未満で交替した事例さえある）仮に百歩譲って八丁堀近辺に屋敷を拝領していたとしても「代々」

に亘るわけがない。しかし、大名家の陪臣なのだから、大名屋敷内の長屋が自宅である。

その自宅に「玄関」が出てきて、これまた驚愕。御目見以上の身分でなければ玄関構えは許されない。

これが町奉行所の同心であっても、玄関構えは許されない。更に読み進めたところが、表札が出てきて、もう、読むに耐えなくなつて、破り捨てた。久々に本代を損した。

江戸時代の武家が表札など、出すわけがない（某新人賞受賞作にも、目当ての武家屋敷を探すのに片端から表札を見て回る馬鹿な話があつたが）。武家は常に合戦・戦闘を想定して生活している。

表札を掲げて、わざわざ敵に自分の住居を知らせるような愚かな行為をするだろうか、と考えてみれば武家に表札がない理由が理解できるはずである。南北の町奉行所にも、テレビ時代劇のような表札（看板）は、ない。

そもそも（町人が仕事内容の看板を出すことはあつたが）江戸時代に表札はなかったし、郵便制度が発足した後も、かなりの期間、表札を掲げる習慣がなかった。

表札が普及したのは、おそらく明治時代の後半以降である。拙宅などは、名主で村長だったこともあって、郵便配達人には周知の家であるから、表札を掲げたのは太平洋戦争以降である。

もう、博覧強記どころか、厚顔無恥と言わざるを得ない。これを

博覧強記と煽て上げた解説の評論家の無知にも、呆れるばかり。（作家・時代考証家）

静中静高史より

73期 山梨由記

男女共学の始まりについての記録がある。

「二五年四月、新通学区制の実施によって、城北高校に家庭科が設置され、女子高校としての性格が明確になったことが、前年の学区制に基づいて城北高校へ入学していた男子生徒をいずらくした。また一方、城内高校に入学した女子生徒の中にも、女子高校への転学を希望するものもあつた。『わが校のあゆみ』（県立静岡城北高校創立六五年記念）によると、

市内の新制中学を卒業して入学して来た人たちの中に、男子生徒が十八人ほど加わっていたのです。そして、ニクラスに九人ずつ別れて配置されたのです。……もともと男子に向けた設備など、トイレからして十分に整っていない折でしたから、たださえ居心地がよくない処へもつてきて、口達者な女生徒が事ある毎に理路整然とまくし立ててきます。人数からいっても不利。今から考えても、男子にとっては、気の毒な一年だったのです。（中略）

とあり、男女共学の目的は達せられそうもなかったのである。かくして、両校生徒の交換となり、城北男子生徒はそっくり、城内へ編

入してきたのである（『職員会議録』昭和25.4.21）。

さて、城内高校では、二五年度に四一名の女子生徒が入学したことから、男女共学制もほぼ確立した。

城内高校に入学した女子生徒の中に女子高校の性格を持つ城北高校に行きたい者もあり、かくして、城内高校と城北高校で生徒の交換となり、城北男子生徒はそっくり城内高校に編入してきたのである。

この初期の男女共学の状況を、当時、生徒として体験した四人の女性、荒谷じつ子（旧姓竹下）、宇田貞子（「土屋」）、若山光子（「立川」（以上68）、金田絢子（「田口」（69）の回顧談としてまとめたのが、『静高の男女共学の初期』（昭和25.5『東京・真杉高之（44）がまとめる』である。それによると、

◇共学のプラス

68期の三人は、共学のプラスを共通して認め、また男性の方が女性より優れている点を感じたという。だから、そういう能力の優れた男性の多い中で勉強できたのは、確かに得だったと言った。

男性に大事にされた記憶が強く残っている事も三人の共通した思い出。クラブ活動の時なども男性に親切にされた。卓球など男性と練習をともにしたことで実力がついた。（中略）男女共学して良かったと思うのは、社会人となっても痛感している。（中略）

◇「静高卒」と過大評価

結婚談のとき、東京の人との話

だったが、静岡県で一番良い高校を卒業しているということで、話は一ぺんに順調に進んだ。とにかく、静中―静高のネームバリューは高い。しかし逆に「男の学校の静高へ行くの」と詰問されたみたいな感じをうけたこともある。女性らしい女性になれない、お転婆になるぞといわぬばかりの眼でみられたこともなくはない。（以降略）

以上が、静中静高史に記載されている。ところで、68期から5年遅れる事の、小生の73期は、三八〇名の同期生の中の女性十二名であった。同期の遠山敦子（旧姓小沢）によれば、「男子校に入ってしまったのだと、孤独な日々でした」との事であった。現在、男女半々の生徒数との事ですが、貴方の入学期では、女性は何人でしたか。

★静中静高史に記載されている内容は、史実に基づいたものとして編集されましたので、その掲載文章から引用したものです。静中静高史を購入されていない方が多いと思いますので、抜粋したものを関東同窓会報に掲載されたら、お役に立つとの思いです。

○共学事始 77期 清水雅尚

現在、女子生徒の入学が五割になろうとしている時、いつから女子生徒が入学し定着してきたかを調べて記録に残す事が大事であると思います。当時の生徒であった先輩たちにお伺いをして調査結果と写真等を次号に発表しようと思っております。楽しみにして下さい。

77期関東同期会（七夕会）3年ぶりに開催、21人が旧交温める

77期 清水 雅尚

77期関東同期会（七夕会）は、コロナ禍のため休止していたが、9月21日に出席者21名で3年ぶりに日本記者クラブで開催した。この間に大黒柱の松井義之、柴田哲夫、大隅多一郎、澤井宏明各氏が逝去した。黙祷を捧げた後、球界のレジェンド・石山建一氏が静高野球部について講演。興味深い話ばかりで魅了された。聴衆は静高野球が強くなければ面白くない人たちなので…。

大隅多一郎氏の追悼集（東大ボート部で全日本優勝、五輪候補選手）、遠藤一仁氏（92期、昭和48年甲子園準優勝時の1年生投手）の野球指導の軌跡などの関連本も回し読みした。

2時間に渡って旧交を温め楽しいひと時を共有。メンバーの多くが閉会後もクラブラウンジで歓談した。

《石山建一氏の講演》

挑戦すれば「勝利」が微笑む

何年前か、長らく野球部が甲子園に出られない時期があり、静高百周年の記念講演を頼まれた。会場には歴代校長が出席しており、甲子園に出るにはどうしたらいいか問われた。まず話したのは、校長はプロ野球で言うところのナ、部長は球団社長、OBはスカウトに相当するので、各位がその役割を十分果たして、優秀で頭の良い選手を見つけて静高に入

れるべきだということだった。

話の後、杉田校長が「私の役割は分かりました。よい選手を入れるということですね」と言ってくださった。その翌年に入学した選手が高木と市川。彼らの3年時、甲子園で優勝したのが桐生第一だが、同高を甲子園で一番苦しめたのが静高である。

県教育長に就任した杉田先生にお礼の電話をした甲子園の様子を楽しそうに披露してくださった。野球部後援会長に協力をお願いし、OBはスカウトとして年度ごとに活動すれば実績に繋がると話し合った。

今後、日大三島など私学にいい選手が集まる可能性があり、静高もしっかりしなければならぬ。OBスカウト網を張りめぐらせないと負けてしまう。

相当前、高知に講演に行った。明德義塾の馬淵監督が星稜高校の松井秀喜を5連続敬遠し非難された9年後だった。私は野球センスのある馬淵監督を潰したくないと思ひ、会場で「あの敬遠は間違っていない。相手チームはそれを予想して対策を立てるべきだ。私は早大の監督の時、4番の岡田（その後阪神）の後に好打者の金森を置いて対応した」と話した。その話が翌日、高知の新聞トップに大きく出たため馬淵監督は面目をほこして翌年には甲子園で優勝までしてしまった。

今静高は栗林監督の時に8度、池田監督で1度と、コンスタントに甲子園に出ている。全国的に公立では稀なケースで、他の公立の目標になっている。東京六大学でもすべての大学に現役の選手がいるのは静高だけ。東大の4番を打っているのも静高出身。我々は誇っている。

今夏の甲子園で優勝した仙台育英の須江監督のインタビューも話題になった。「青春ってすごく密」という言葉通りに、補欠の選手が決勝戦で先発メンバーに入り満塁ホームランを打った。真面目に真剣にやってきたところこそ「勝利の女神」が微笑む。



上：石山建一氏による静高野球部の話で大いに盛り上がる。



左：77期は今年度80歳。久々の同期会に21名が集合。

豊かなる恵みの里に夢と希望を培う

岳南球友会より

会長 70期内野手 望月一男

会員（会計） 94期 塚田淳代

会員（事務） 94期 松永啓

関東同窓会の皆様こんにちは。
発足五周年を迎える岳南球友会
は「高きを仰ぎて心を繋ぐ」を合
言葉に和やかな語らいを重ね、健
やかな人の輪を育んでいます。

恩師・同窓生・市民の幅広い球
友に支えられ、本校野球部の有リ
様を見つめ、一喜一憂しながら野
球を通して生活の潤いを共有し
ています。今夏、本校定時制野球
部OBの発案で製作した「球友帽
子」を被り、気持ちを新たに草薙
や庵原に集ってチームの健闘を
讃え合いました。小関校長先生・
野球部スタッフ・父母会・野球部
OB会・後援会の方々等のご尽力
に感謝し、末端から幅広く応援の
心を届けたく思います。

還暦前後の多くの球友も私に
は年少少女のように感じられ、失
礼ばかり笑ですが、先日球場で、
応援指導部の生徒さん方が声掛
け下さり「71年前昭和26年秋の
一年生セカンド望月です」と挨拶
すると「和田二塁手（同日5打点）
の元祖？」と尋ねられ、あの秋の
東海大会準優勝（選抜は優勝の静
商）を思っ、今は亡き鈴木芳太
郎監督（静中静高史上最優勝投手）
やチームメイトに「今は応援団の
大半が女生徒です」と報告しまし
た。ひ孫のような選手生徒に未来
を担う頼もしさを感じながら球
友と共に齢を重ねたく思います。

YouTube に時折静高の試合を
アップさせて載っていますが、投
攻守の迫力あるプレーもさるこ
とながら、スタンド応援の映像が
視聴者から共感を得ることも有
るので、今春は関西・静岡・関東
の球友と、球場でドキュメンタリ
ー風の撮影も試みました。球場で
応援したくても来れない遠方
の方々が試合の映像を観て下さ
るようで、アップ数日で再生回数
が数千回に達することもありま
す。最近では同期生の高橋宏君（関
東同窓会副会長）と球場でよく会

球友会に会費は無いですが、主
な会合の際、割り勘費用の一部を
必要経費や後援会への寄付に充
当させて戴き、球友大会で報告し
ています。私自身は浜松市在住な
ので、東海大会や浜松球場に馴染
み深く、今春の小牧応援ツアーで
は関東関西の皆様を浜名湖にご
案内でき、心榮しく「近県民割」
の計算やお土産金券のお薦め品
を紹介し、初夏には同じ浜松の野
島譲元監督先生と球友安全打合
せ会でご一緒でき、お元気を手
本にしています。来る12月の球
友忘年会では、関東有志の演奏等
が期待され、静高野球文化に感謝
して参加したいと思っています。

会員 87期 橋村芳一

うので、我が87期の仲間達を募
って応援風景を撮影・編集してご
紹介したいと思っています。

今夏は掛川西に九回二死から
逆転され1対3。秋は常葉大菊川
に主導権を奪われ0対9（七回）
ですが、過去60年間に公式戦の
コールド負けは東海大会と甲子
園（7点差以上の負け）を含めて
も僅か十回程と、改めて「普段は
強い」今秋も「殆ど強かった」と
感謝します。昭和45年0対16高
松商始め大敗の後には必ず強くな
るので、今希望が生まれます。10
月に本校Gで横浜と3対3で引
き分けた翌週、東海大相模に遠征
し6対10だが力強く3HRを放
ち、11月は立教大下級生に挑み
ます。さあ歩みましよう岳南の球
友よ。春青陵の雄叫びをマスクに
秘めて明朗に集いましょう。

【主な球友行事】「お気軽に♪」

- ◎観戦応援（毎回一期一会と考え、
草薙の沢村ルースに挨拶する）
- ◎球友セミナー（野球部OBの
試合解説や歴史研究発表など）
- ◎球友安全打合せ会（初夏に集ま
り健やかな球運と安全を祈る）
- ◎応援ツアー（甲子園や東海大会
の際に各地に泊り英気を養う）
- ◎球友大会兼忘年会（野球部OB
の講演、球神降臨の儀、応援の
言葉、歌と演奏の祭典）昨年は
マリテスのクリスマス JAZZ
ソング、本年は湘南のベンチャ
ーズショーを予定します ♪



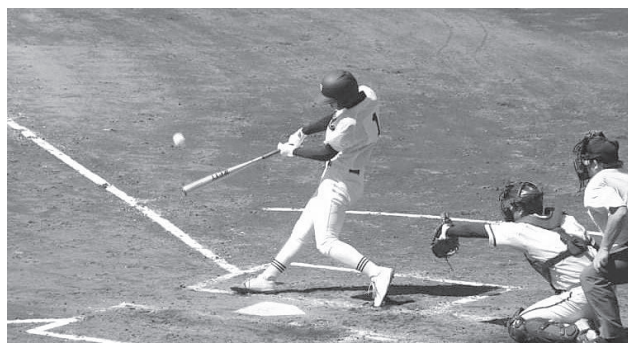
三夏連続マスク小声で「(熱中症に) 勝つぞ! シズコー!」



盛夏の準々決勝で掛川西に挨拶「公立のベスト4はもらった」?



70期望月一男内野手（後列中央）等と140期141期応援指導部



99期大久保132期安本以来の2打席連続アーチは141期中野



2022年度静中静高関東同窓会総会
終了後の記念写真（7月2日 日本プレスセンター）

他団体からのお知らせ

多くのOBがこれまで登場
静岡商工会議所月刊誌「Sing」

静岡商工会議所が毎月発行する『Sing』。東京からこんにちはのコーナーに、これまで多くの関東在住OBが掲載されてきました。ホームページ「リンク集」におまとめしています。皆さんの同期の方がみつかるかもしれません。

11月号には、95期・菊入弘行さんが登場しています。



最新号は「東京からこんにちは」
2022でWEB 検索！

静岡市東京事務所よりご案内

静岡市東京事務所では、首都圏において本市のことを楽しく盛り上げてくれる、静岡市のファンの方々に組織された「静岡市の「いいねえ。」届け隊」事業に取り組んでいます。現在、首都圏在住者を中心に、約250名に登録いただいております。月に1回程度、会員同士や市職員等とゆるく交流しています。

12月14日（水）には、都市センターホテル（平河町）にて、「歴史文化」をテーマに、来年1月にランドオー

ブン予定の「静岡市歴史博物館」の紹介や、お楽しみ抽選会などを盛り込んだイベントを開催予定です。既に会員になっている方はもちろん、会員ではないけれど興味のある方は、この機会にご入会のうえ、ぜひご参加ください。

【問合せ】静岡市東京事務所
TEL 03（3556）0865

静岡市の「いいねえ。」届け隊
お申込みはコチラから↓



蘇る同窓会・第75回江の島会

82期 富坂 修

去る9月25日（日）、第75回江の島会が3年ぶりに開催された。場所はいつもの老舗旅館相州恵比寿屋で。コロナ下であり23名と少ない参加者数であったが、大いに盛り上がった。

盛り上げてくれた第一弾は89期の新村暢宏さん。『我が国を取り巻く安全保障環境／軍事的視点から』の題目でお話いただいた。ミサイルから潜水艦・北方四島・インド太平洋・ウクライナまで興味深いものであった。新村さんの卓話については75期の川面忠男さんが纏めてくれた。第二弾は「たかが同窓会、されど同窓会」でお馴染みの71期の浦田彰さん。絶妙な乾杯の挨拶で、3年間たまっていたうっぶんを吹き飛ばしてくれた。第三弾は恵比寿



第75回 静中・静高「江の島会」
2022/9/25 於：江の島・恵比寿屋



今回の卓話は新村暢宏さん（89期）。
大変興味深いお話をいただいた。

屋の料理。ホテルの立食形式と違い、一人ひとり目の前に並ぶ。これぞ宴会で、参加者全員が舌鼓を打った。懇談は人数が少ないこともあり、全員の近況を語ってもらった。
閉会前、校歌・応援歌・道遥歌の斉唱であるが、マスク掛けで小声で合唱した。89期の北村佳久さんのスマホから伴奏が流れた。唯一残念だったのは会の途中に静岡野球部が常葉菊川に敗れるニュースだった。帰りは23名それぞれが、海風に吹かれ、棧橋を渡った。来年はいつもの場所、いつもの日ではなく10月の第三日曜日を予定している。多くの方の参加を期待している。

事務通信

年会費（維持費）の
納入にオンライン決
済システム導入！

いつも会員の皆様には、多くのご支援いただき感謝申し上げます。これまで、ゆうちょ銀行専用の払込票をお送りして参りましたが、会社勤めの方には大変ご不便をおかけしていました。このほど、オンライン決済機能を追加しましたのでご活用をよろしくお願ひします。

【新たな決済方法】

- ・クレジットカード
- ・ネットバンキング（ペイジー）
- ・コンビニ店頭払い
- ・スマホ決済アプリ「支払秘書」（全て、手数料は無料です）



「ウェルネット」の決済手続き画面へ。案内に沿って決済方法を選択してください。

◎スマホにてQRコードを読み取るほか、ホームページ「年会費」ページからも手続きができます。
◎「期」「氏名」「電話番号」「メールアドレス」（決済通知）を必須項目としています。

◎会計処理の都合上、オンライン決済は、2月末日で締め切ります。3月以降のご入金、翌年度の年会費拠出者一覧に掲載しますのでご了承ください。

◎兼ねてよりご案内している銀行オンライン送金も歓迎致します。ゆうちょダイレクト、みずほダイレクトなど、手数料が無料になるサービスにご加入の方は、そちらを継続してご利用いただくと助かります。

★ゆうちょ銀行

〇二九（ゼロニキユウ）店

当座 〇〇〇9969

★みずほ銀行

江戸川橋支店

普通 8078861

◎従来のゆうちょ銀行専用の払込票は継続しますので、今後共よろしくお願ひします。

郵便物転送期間中に
住所変更のお願い

転居、ご結婚による姓名変更、新規入会、退会等、全てホームページの左記フォームでご連絡いただけます。ご事情ある方はコメント欄をご活用ください。

SNSのフォローを

イベントは本会報の他、ホームページ、フェイスブック（静中静高関東同窓会）、ツイッター（@sakunai_kenji）でもご案内しています。ツイッターではこまめな発信が受け取れます。お気軽にフォローしてください。また同窓生が活躍している情報を当会へぜひお寄せください。



Twitterへ

【最近のお知らせ】

- ・ハイブリッド総会について速報として報告を行いました。
- ・会報93号で反響の大きかった鈴木明徴先生「週刊メイチョウ」の関連記事を「特集」メニューに抜粋掲載しました。
- ・91期・恩田侑布子さん主宰の樸（あらき）俳句会HPに、75期・川面忠男さんの読書ノートが掲載されました。
- ・リニューアルと同時に新体制を発表しました。

多くの閲覧を
ありがとうございます

◆ホームページ閲覧状況（半年）

今年度上期（4月～9月）

- ・訪問者 6713人
- ・ページアクセス 36498回

◆会員現況 3572名（50名減）

原稿募集

今号から連載企画「わたしと趣味」がスタートしました。今回は絵画特集となりましたが、旅行、スポーツ、釣り、演劇・映画鑑賞、音楽、読書、鉄道、登山、歴史探訪、囲碁・将棋、ゲーム製作などお気軽に投稿してください。

もちろん仕事関連、出版、展示会など他のジャンルの原稿も大歓迎です。関東同窓会公式アドレスもしくは左記アドレスにお送りください。1000字程度で写真を付けてください。

締切は5月号が2月末、12月号が9月末です。（八牧）
hiroyuki.yamak@gmail.com

広告募集

1コマ1万円（年間二万円・税込）を、12月掲載確認後、一括で広告主様に順次ご請求させていただきます。ご希望の方は（支払口座はみずほ銀行です）新規広告をご希望の方は広告画像データ（縦横比11名刺相当）この枠の大きさをお送りください。ジャンル不問です。関東同窓会運営の収入源として大変助かっております。広告掲載のご連絡は、編集の都合上、会報発行の前々月末までにご連絡ください。

編集後記

▼待望のM（麻雀）リーグが今年も10月に開幕。一刻も早く帰宅しTV観戦する日々が再開。女流雀士デビューは遠い夢だが、せめて雀荘でバイトしたい。それまで私の趣味は関東同窓会だ。（京）
▼たまに漫画を読みます。推しは野田サトル『ゴールデンカムイ』。舞台は明治末期の北海道、元兵士とアイヌの少女を中心に金塊を巡るサバイバルバトルが始まる！好きな登場人物は函館戦争で死ななかった設定の土方歳三です。手塚治虫文化賞他受賞。（万）
▼コロナ禍で在宅時間が増えた家人が、オンラインのパン教室で学び始めた。その後、北海道産の原料をメインとしたパン屋を開業。週2日だけ、売り残しの出ない商いをしている。「趣味」からは遠くないのか。（淳）
▼ヴァイオリン歴64年だが、一向に上達せず。静高時代にハモバンで運命交響曲を弾いた自慢、孫は信じず。OBバンドと千葉アンサンブルで演奏を楽しんでいるが、ジイと「楽器の女王」は完全にミスマッチです。（浩）

会報のバックナンバーはホームページ「会報」や、「リンク集」にアーカイブとして保存してある旧ホームページ「会報トピックス」からご覧になれます。

鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)

代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1

TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-22-7

TEL 03 (6404) 2100

「何宗ですか?」「ハイ、皆之宗(みなのかみ)です!」

～いざという時、頼りになるかかりつけのお寺～

普 門 庵

臨済宗大徳寺派 住職 見城宗忠 (90期)

206-0801 東京都稲城市大丸 857

Tel : 042-378-1707 Fax:042-379-8647

URL : <http://www.fumon-an.jp>



建築・不動産活用などのご相談はどうぞ

Architects Office

一級建築士事務所

石川 雅英 (94期)

Masahide Ishikawa

108-0071 東京都港区白金台 3-2-16-201

T 03 - 5422 - 6525 HP www.rvstone.com

architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp

伊豆の旬 やんも 葉

www.yanmo.co.jp

小林 秀男 (97期)

<南青山> 東京都港区南青山5-5-25 T-PlaceビルB1

TEL: 03-5466-0636 (日曜日のみ休)

<丸の内> 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルB1

TEL: 03-5224-3322 (定休日なし)

<大手町> 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビルB1

TEL: 03-3278-7272 (土日祝定休)

仕出し厨房 やんも

同窓会で人の輪を!!

野 方 重 人 法 律 事 務 所

弁護士 野 方 重 人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

戴下ビル6F

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820



激動世界! 正確な真相ニュースで「平和」に貢献

相談役・主筆 八 牧 浩 行 (82期)

yamaki@recordchina.co.jp

本社 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館3F

TEL 03-3573-7501(代) FAX 03-3573-7503

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥 巢 修 税 理 士 事 務 所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848

E-mail : tosu@mtj.biglobe.ne.jp

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

医) 名 泉 会 タ カ ラ 歯 科 診 療 所

フ ラ シ ナ ア キ オ
代 表 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒 2-18-13

mail: jimbo20seiki@gmail.com

2階 ブックカフェ二十世紀



- アメコミ・海外コミック
(MARVEL&DC他 原書リーフ/TPB/ハードカバー、日本語版)
- 歴史・民俗・風俗・江戸・東京・食べ物
- 演劇・芸能/TV・音楽・落語・盛り場
- 絵本・児童書・漫画・雑誌・サブカル
- 思想・哲学・人文
- 明治文学・評論

SF、ミステリ、幻想と怪奇●

(SF、ミステリ、推理小説
幻想・怪奇小説、ホラー＆ファンタジー、評論他)

映画グッズ・関連品●

(ポスター・パンフ・プレス・チラシ・写真他グッズ・書籍)

文学/人文系●

(文学・評論他、岩波・ちくま・講談社学術文庫他)

昭和の芸能、スポーツ関連(野球・相撲・プロレス)●

その他サブカルチャー、書籍百般●



アット @ワンダー (1階)

mail: wonder@atwonder.co.jp

書籍 家財 雑貨 等

買入れ・整理・片付け

お気軽に御相談下さい!

アット @ワンダー

フリーダイヤル 0120-154-727

店主 鈴木 宏 (91期)

101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4 開拓社ビル 1・2F



非破壊検査のトータルサプライヤー

日本マテック株式会社**NIHON MATECH CORPORATION**代表取締役社長 **松島 勤** (84期)

東京本社：東京都新宿区若葉 1-21-17 3F

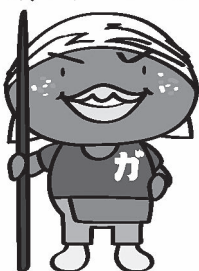
TEL: (03) 3221-7531 FAX: (03) 3221-7240 (〒160-0011)

大阪支社：兵庫県高砂市春日野町4-35 グランメーブル435 1F

TEL: (079) 447-1561 FAX: (079) 447-1556 (〒676-0814)

<http://www.matech.co.jp/>**株式会社 スマートグラフィックス**代表取締役社長 **福田 浩志** (97期)〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13
TEL. 03-3953-1184 FAX. 03-3953-1194〒335-0036 埼玉県戸田市早瀬 2-22-10
TEL. 048-422-3660 FAX. 048-422-3661

smarts

静岡のおでんとお酒と黒はんぺん**静岡おでん ガッツ**

☎ 03-6273-8663

🌐 <https://shizokaoden-guts.red/>

🐦 @ShizokaOdenGuts

📱 静岡おでんガッツ

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 2-19-8 阿部ビル1階

代表 市川 徳二 (112期)

**高きを仰ぎて心を繋ぐ**

さあ一緒に時空を超えて

吾等が聖地を歩みましょう

岳南球友会

会長：望月 一男 (70期 野球部)

HP「岳南球友会」

連絡窓口：080-5580-2958 (94期 松永)

メール：k30.ska-1213m@ezweb.ne.jp

**ANOMADO**

『アジアの窓』編集長

八牧 浩行

中立公正な言論ニュース・広場

〒105-0004 東京都港区新橋2-20-15
新橋駅前ビル1号館305-1

TEL 03-3573-7501 FAX 03-3573-7503

携帯 090-2653-9469

E-mail hiroyuki.yamaki@mbm.nifty.com

幼児教育に新しい風を

**こぐま会**
幼児教育実践研究所代表取締役 **久野 泰可** (83期) 取締役 **久野 淑子** (83期)本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F
TEL 03-3463-3815

Lighting for Your Safety

Koito<https://www.koito.co.jp>**安全を光に託して**

人とクルマの安全は私たちの願い

本社：東京都港区高輪四丁目8番3号 TEL:03-3443-7111
国内工場：静岡、榛原、相良、富士川、九州
海外工場：USA、メキシコ、ブラジル、UK、チェコ、中国、台湾、
タイ、インド、インドネシア、マレーシア

小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)